

令和5年度研究推進計画

大竹市立玖波小学校

1 研究主題

「『わかった』『できた』と実感し学びに向かう児童の育成」
～個別最適な学びと協働的な学びがつながる授業を通して～

2 主題設定の理由

本校はこれまで授業のUD化の取組を通して、「できた」「わかった」と実感し、学びに向かう児童の育成をめざしてきた。5つのテクニックやWhich型課題を取り入れ、児童が楽しみながら授業に参加できるようにし、主体的に学べる場面を増やした。また、個のつまずきの要因に視点を当て、それに応じた取組も行ってきた。その結果、学習についてのアンケートでは、90%以上の児童が「できた」「わかった」と実感することができた」と肯定的な回答を示し、主体的に学ぶ姿も増えた。しかし、児童の意欲は高まっているものの、一時的な意欲にとどまっていることが多く、「新たな問いを見つけない」「もっと追究したい」といった学びを広げ深める意欲につながっていない。また、個のつまずきの要因をさぐり手立てを考えることはできたものの、一人一人の得意な学び方、関心、能力等に応じた多様な学びにはなっていない。

そこで今年度は、児童一人一人の学びに向かう力をさらに高めていくために、「個別最適な学び」と「協働的な学び」がつながる授業改善に取り組んでいく。

「個別最適な学び」とは、これまで、教師側の視点で「個に応じた指導」と呼んでいた概念を、学習者視点に置き換えたものであり、子ども一人一人の特性に応じた「指導の個別化」と、子ども自身が学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」に整理されている。（令和3年中央教育審議会答申）

目指す姿は、全ての児童の主体的な学びの実現である。一人一人の特性や実態に応じた学習内容、学習方法を児童自身が選択することで、児童の意欲は持続し主体的に学ぶ力も高まると考える。このように、児童が、自分で最適な学びを選択するためには、児童の特性や実態に応じて、単元を通して学習内容の確実な定着を図る観点を持ち、選択性のある学習課題や学習方法を設定することで、理解を深め、広げる学習を充実させていくことが必要である。

また、「個」で学んだものを、多様な他者と関わり合う対話的な学びの中で、深め、広げていく「協働的な学び」も重要である。自分とは違う学習内容や学習方法を知り、他者の良さ・自分の良さに気付くことで、自分の学びを振り返り、次の「個別最適な学び」へとつながる授業をめざしたい。

「個別最適な学び」により児童一人一人の学びを充実させ、その学びを認め合い他者と関わりたいと考える「協働的な学び」とつなげることで、児童が「わかった」「できた」と実感し、「もっと伝えたい」「もっと学びたい」という児童の学びに向かう力を高めていきたい。

今年度は「令和5年度小学校低学年段階からの学ぶ喜びサポート校事業」の指定を受けている。低学年児童の学びに向かう力を高めるための取組を充実させるために、一斉授業の中でのUD化を基盤とし、「個別最適な学び」のための「授業中の個別の配慮」や「授業外での個別の支援」に取り組んでいく。

3 研究仮説

児童が個々の特性に応じた学習内容や学び方を選択し、共に学ぶ良さを実感できれば、「わかった」「できた」と実感し、児童の学びに向かう力は高まるであろう。

4 研究の内容

(1) 「個別最適な学び」「協働的な学び」を充実させる取組

- 児童の特性や実態に応じた学習内容・学習方法の研究
 - ・一人一人の特性や実態の把握
 - ・特性や実態に応じた学び方の研究
- 一人一人が学習課題や学び方を選択できる場の設定
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」をつなげる単元構想・授業構成
 - ・共に学ぶ価値を実感できる全体交流の場面の設定
 - ・振り返りによる児童の自己分析
- ICTの効果的な活用

(2) 低学年児童の基礎的な学力向上のための取組

- 児童のつまずきの把握
- 個別の支援体制の充実

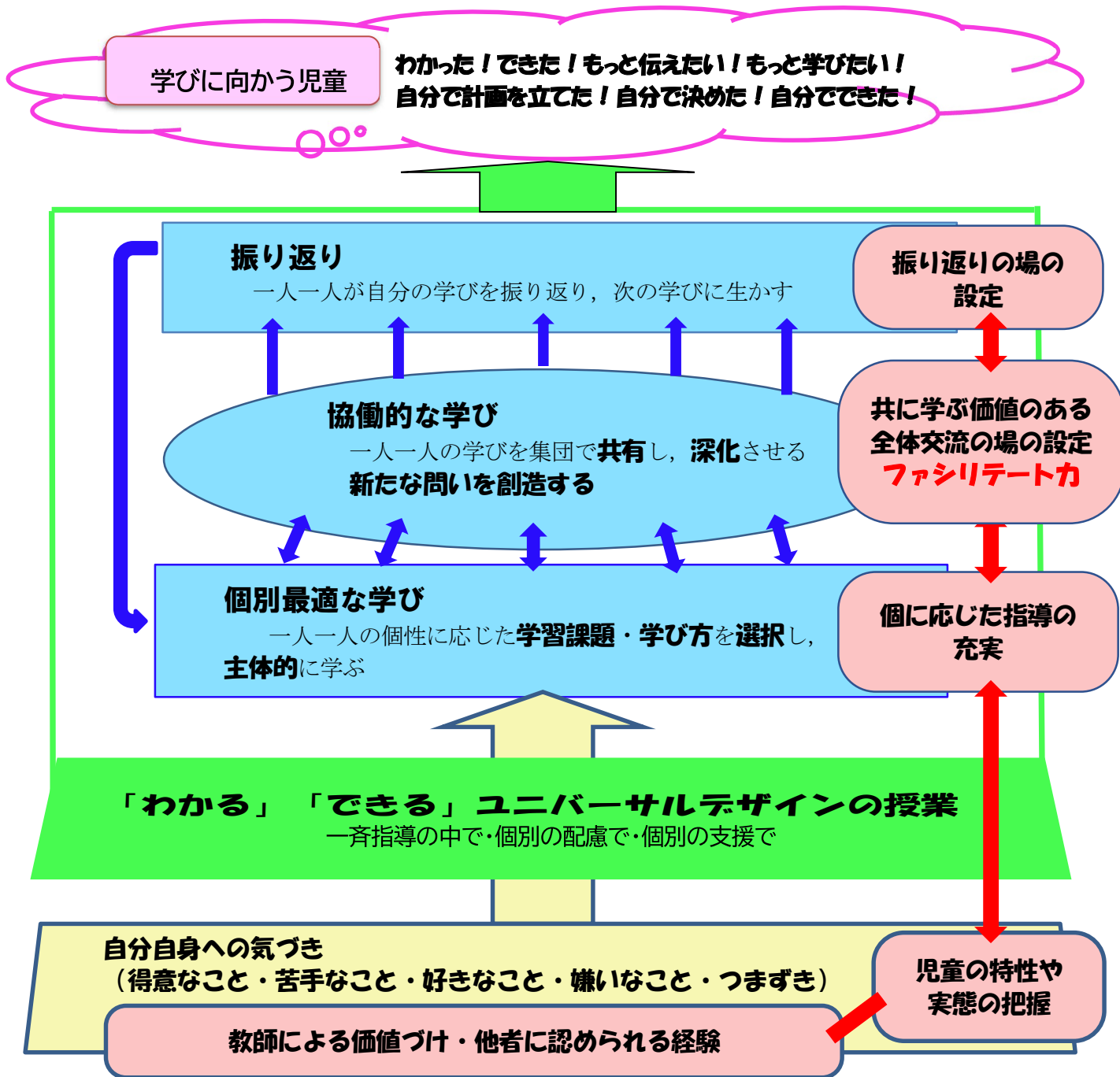
5 検証計画

視 点	方 法	指 標
○児童は「わかった」「できた」と実感することができたか。	児童アンケート ・「わかった」「できた」と実感することができたか。	児童アンケート評価の肯定的評価が85%以上
○児童は学びに向かう力を高めることができたか。	児童アンケート ・自己決定 「学習課題や学習方法を自分で選ぶことができたか」 ・個別最適な学びと協働的な学び 「自分の考えで友達の学びが深まったか。」	児童アンケート評価の肯定的評価が80%以上
○学力が向上したか。	標準学力調査	標準学力テスト全国平均以上

6 研究構想図

学校教育目標 「共に生きる」

【研究主題】 「『わかった』『できた』と実感し、学びに向かう児童の育成」
～個別最適な学びと協働的な学びがつながる授業を通して～



【昨年度の児童の実態】 ○90%以上の児童が、「できた」「わかった」と実感することができている。
●標準学力調査標準スコア50%以下の児童が国語47・8%算数43・7%いる。
●標準学力調査標準スコア30%以下の児童が国語4名 算数3名いる。
●「新たな問いを見つけない」「もっと追究したい」といった学びを広げ深める意欲につなげていない。

7 研修計画

	月 日 (曜)	研 修 内 容
①	4月13日 (木)	・研究主題・研究計画の具体的内容についての共通認識
②	5月	・小学校低学年段階からの学ぶ喜びサポート校事業 理論研修
③	6月 15日 (木)	・授業研究① (6)年 「 」(瀧名) 教諭
④	6月 日 (木)	・授業研究② (2)年 「 」(森田) 教諭 ・小学校低学年段階からの学ぶ喜びサポート校事業
⑤	7月 日 () 夏季休業中	・1学期のふりかえり
⑤	8月 日 () 夏季休業中	・中学校合同研修?
⑥	8月 日 ()	・2学期からの取組確認
⑦	10月5日 (木)	・授業研究③ 探究的な学び (3)年 「総合的な学習の時間」(笠井) 教諭 ・研究主任研修
⑨	10月 日 ()	・授業研究④ (1)年 「 」(土居) 教諭 ・小学校低学年段階からの学ぶ喜びサポート校事業
⑩	11月 日 ()	・授業研究⑤ (4)年 「 」(林) 教諭 ・授業研究⑥ (5)年 「 」(平林) 教諭 そう
⑩	12月 日 ()	・授業研究⑦ ひまわり 「 」(細川) 教諭 (特別支援学級) ・授業研究⑧ たんぽぽ 「 」(川本) 教諭 (特別支援学級)
⑪	1月 日 ()	・授業研究⑨ ()年 「 」(石田) 教諭 (専科)
⑫	2月 日 ()	・今年度の研究のまとめ ・来年度に向けて